

2024年3月31日

## 研究休暇報告書

南山大学長

ロバート・キサラ殿

所 属 外国語学部ドイツ学科

職氏名 教授 中屋 宏隆

受入研究機関等：自宅および研究室

期間：2023年9月16日～2024年3月15日（半年間）

目的：「1970年代の西ドイツ原子力産業の分析」を進めるため

標記研究休暇期間における研究活動および教育活動の状況について報告いたします。

### 1. 研究休暇中の研究活動

研究室および自宅での研究活動に励んだ。これまでの自身の研究を整理するとともに、目的として設定したテーマについても、一次史料の分析などを進めた。今後の研究成果の発表に繋げていきたい。

### 2. 出版企画の進展

上記の研究目的とも関連するテーマで出版社に依頼した企画が、無事出版社内で承認された。今後は計画通り原稿の執筆を進め、最終的な発刊にまで進んでいきたい。

### 3. 海外出張や関連施設の見学

2023年11月、ルール地域のエッセンに本社を構えるドイツ電力企業のアーカイブスを訪問し、史料収集を行った。現地では保管史料（資料）についてのレクチャーや関連文献の紹介も受け、今後の研究に資するものとなった。その他、日本国内でも通常は遠方のために訪問が難しい原発関連施設の見学なども行った。

### 4. 研究休暇中の教育活動

研究休暇期間中には、学科科目として「演習」と「研究プロジェクト」を担当した。また、2024年度のQ2に開講される「海外フィールドワーク（ドイツ）」の前年度準備においては、

2023年に当該科目を担当したため、引き継ぎも兼ねて携わった。